

高月中だより

学校教育目標 『より良い自分を求め、自立できる生徒』の育成
学校生活スローガン 切磋琢磨(厳しさと優しさ)

No.5 平成30年6月1日(金)

長浜市高月町高月 2491 番地 1

電話：0749-85-2020

FAX：0749-85-2259

takatsuki-ms @ nagahama.ed.jp

文責 別府 清和

No.4からの続きです。吹奏楽祭・春季総体を終えての、各部活動顧問の思いをお伝えします。

吹奏楽部 田中・桑原

吹奏楽祭では親しみやすい曲を演奏し、素直な音色で演奏できていたと思います。また、舞台係を担当し、ステージ運営の大変さも感じてくれたと思います。

夏の県吹奏楽コンクールでは部員数の増加によりAの部に出場します。また、中部日本吹奏楽コンクールにも出場します。自由曲(アルフレッド・リード作曲「春の猟犬」)とそれぞれの課題曲を練習するのは時間的にも厳しいものがありますが、「一音入魂」を忘れずにしっかりと練習していきたいと思います。

サッカー部 宮内

試合開始直後は、普段から練習していたプレーを心がけ、試合に臨むことができていました。相手からの攻めに対しても辛抱強く守り、時には攻撃のチャンスをつくる場面も見られました。しかし、1度失点をしてから、徐々に地力の差が出始め、前半を4失点で折り返しました。後半は、気持ちの切り替えを大事にしようと声をかけ合い、コートに戻りましたが、前半の失点がやはり気持ちの面でも影響し、結果として、0-10で敗退となりました。負けはしましたが、試合後にはミーティングを行い、今後に向けての課題を確認し、夏の大会へ新たに気持ちを高めることもできました。

剣道部 清水・上野

高月中学校剣道部は、全体の人数が多い上、経験者の割合も高く、ブロック大会では団体男女優勝が続いていました。一方、県大会では実力はあるものの、なかなか勝てないという課題がありました。

今回、女子団体が県大会第3位というこれまでにない結果を出すことができました。しかし、まだまだ技術面、生活面での課題は多く残っています。誰が相手でも絶対に勝つという強い闘志を持ち、最後の夏の大会で悔いの残らぬよう、より一層練習に励んでいきます。

女子ソフトテニス部 菅田・岩田

春の大会では、個人の目標、チームの目標を掲げ、チーム一丸となって頑張ることができました。しかし、自分たちの目標を全て達成することはできず、最後の夏の大会に向けて、新たな気持ちで再スタートを切ったところです。技術面だけでなく、活動面においても「あいさつをしっかりとする」、「大きな声を出して練習する」、「テキパキ行動する」など心の成長とチーム力を高めていき、夏の大会を万全の体制で迎えられるよう、1日1日を大切にして努力していきたいです。

バレー部 瀧上・古川

昨年は、部員数が足りず、びわ中学校と合同チームを組んでいましたが、今年度は、7名の1年生が入部してくれたお蔭で、「高月中」として試合に出場することができました。

試合は、1年生2名のスターティングメンバーに加えての戦いになりましたが、よく健闘しました。中体連初出場の緊張もありましたが、序盤はサーブが走り、チャンスボールからのスパイクもよく

決まり優勢に進めることができましたが、後半、レシーブの乱れから自分たちのミスが続き、惜しくも負けしてしまいました。夏の大会に向けては、やはりサーブとレシーブがポイントになります。メンタルも併せて鍛え、県大会出場（ベスト8）を目指して頑張りたいと思います。

最後に、元プロ野球選手の桑田真澄氏の講演から

～表の努力と裏の努力～

野球から学んだ人生哲学の一つに、表と裏の両立があります。野球は、攻撃と守備のどちらも両立しない限り勝利できません。ピッチャーが0点におさえても、見方が0点だったら引き分けです。20点とっても、それ以上とられたら負けてしまうのです。野球は、表と裏を両立させなければ勝利することができません。

実力は50～60%でも、あと足りない部分、この部分を運やツキで埋めれば、実力が100%の人に十分対抗できると僕は思ってるんです。実力を付けるには、やはり表の努力です。勉強も自分で勉強しないと駄目です。人に教えられたりしているようじゃ実力付かないです。野球もそうです。自分でトレーニングしないとうまくならないです。その表の努力プラス、この運やツキがないとどうしようもないんです。特に野球の世界ではそうです。

そこで私は表と裏の努力をしました。表の努力はということかといいますと、ランニングしたりピッチングしたり腹筋、背筋をしたり、そういうことなんです。裏の努力、ということをしたかといいますと、トイレ掃除です。雑草取り、ゴミ拾い、あいさつと返事、履き物をそろえる。玄関に寮ですから靴いっぱいあるわけです。乱れてたら、ぱっぱぱっとそろえるだけです。たったそれだけです。僕の努力には特徴があって、短時間集中型なんです。一日五分しかやらないんです。寮ですから便器もいっぱいあるんですけど。一日一個便器をぴかぴかに磨くんです。次の日は隣の便器、次の日は隣の便器です。一階が終わったら次の日は二階です。できるだけ誰にも見られないように五分間だけです。二十四時間のうちのたったの五分。天気の良い日は寮の前がグラウンドですから、グラウンドの芝生の雑草を二十個、三十個取ったらおわりです。五分ですから。雑草を取ったり、廊下を見て、ごみが落ちていたら、ゴミ箱にぼんと捨てる。そんなことしたって野球はうまくならないんです。分かってるんですが、なぜか十五歳の時、桑田真澄はやりたかったんですね。これは陰の努力なんだと。

ところが、この裏の努力はすごいパワーを持っている。今でも不思議なんですけど、あの十五歳のときに気づかせていただいたことが今の自分につながっているんです。

なぜ、僕は甲子園までいけたのでしょうか。不思議なんですけど、打たれるけれども、野手の正面にいき、アウトになるのです。相手のピッチャーは3年生。1年生の自分には絶対に打てないのだけど、自分の打席になると、ど真ん中ばかり来るのです。裏の努力は、目には見えないけれどもすごいパワーをもっているんだなと思いました。甲子園から帰っていろいろと分析してみました。その結果、裏の努力は運や縁やツキ、そして気付きをくれました。

自分は背も低いし、何1つズバ抜けたものはない。ただ僕は、運が良かったのです。

桑田氏は、「自分は運が良い」と何度も講演で言われたそうです。「自分は運が良い」と言える、そういう努力をしていきたいものです。

